高齢者介護施設の地域施設としての成立の可能性に関する事例考察

石井研究室　　照井　寛子

キーワード：地域施設、特別養護老人ホーム、
施設イメージ、アンケート調査

1. 研究の背景と目的

高齢者介護施設において今後期待されることのひとつに、地域施設としての役割というものがある。これまであった高齢者のための介護施設もしくは居住施設という従来の姿、枠を超えて、地域住民の生活を支える地域施設としてどのような役割を担うことができるかということである。

本研究では、地域社会・地域住民と高齢者居住施設との新たな関係性の模索の中で計画・建設された、ある特別養護老人ホームを対象として、そこでの施設の計画・建設前後の１～２年間を通して築き上げられてきた関係性の実態を把握することを目的としている。地域住民の施設に対する意識、ニーズなどを明らかにした上で、今後の施設のあり方を検証し、その可能性を模索する。

2. 研究方法

調査対象となるＫ特養は平成17年４月に開設された全室個室ユニット型の施設である。Ｋ特養が立地する周辺のA、B、C、Dの４地区を対象にアンケート調査を行った。アンケートは全部で343世帯に配布し、95世帯107名からの回答を得た。回収率は27.7%であった。施設が立地するA地区は平成15年から開発が始まり、今後も発展が見込まれる新興住宅地である(図1)。

3. 結果と考察

3-1. 回答者の属性

地域ごとにみた回答者の年代を表1に示す。それぞれ最も多い年代はA地区では30代が63.3%(19人)、B・C地区では50代が36.8%(7人)と31.4%(11人),D地区では60,70代が共に39.1%(9人)であった。また、回答者の居住年数であるが、A地区はすべてが半年から3年と短く、施設の計画・設計前後からの居住である。それに対し他の3地区は全体の64.8%(68人)が10年以上の居住となっている（表2)。

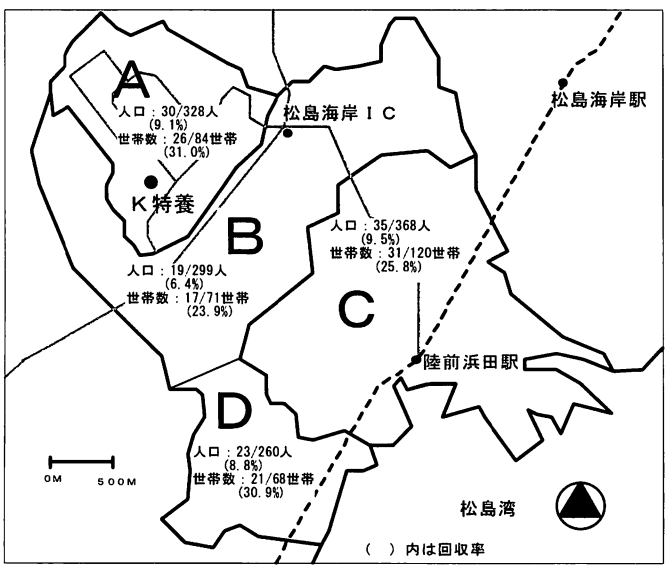

図１　調査対象の4地区とアンケートの回収状況

3-2. Ｋ特養の認知度

「Ｋ特養の存在を知っているか」という問いに対しては、地域による差異が大きく出た（図2)。A・B地区ではそれぞれ1人しか「知らない」と答えた人がいないのに対し、C・D地区では49%（17人)、57%(13人)と認知度は約5割であった。このことにより施設との距離と認知度との相関がみられた。その他、Ｋ特養が介護施設であること、また特養という施設種であることなど具体的になるほど認知度は低くなり、地区ごとの傾向はいずれも同様であった。

「Ｋ特養建設前の計画に対する印象」は図3より、プラスと答えた方が多く、特にB地区では2人以外プラスと答えていた。またA地区住民に対しては住宅購入に際して「近くに介護施設ができるということをどのように思ったか」について、特に何も思わなかったという人が60%(15人）と多くを占めマイナス要素となっていなかった。「今はどう感じているか」に対しては図5より、建設前と同じくB地区の67%(10人）が「親しみが持てる」と回答した。これは、建設時に建築現場事務所がB地区にあったこと、また計画の住民説明会が行われたということもプラスの要因となったと考えられる。

表１　地区ごとにみた回答者の年代別構成

	A	B	C	D	全体
20代	6人(20.0%)	0	0	0	6人(5.6%)
30代	19人(63.3%)	0	0	0	19人(17.8%)
40代	2人(6.7%)	5人(26.3%)	0	0	7人(6.5%)
50代	3人(10.0%)	7人(36.8%)	11人(31.4%)	5人(21.7%)	26人(24.3%)
60代	0	3人(15.8%)	8人(22.9%)	9人(39.1%)	20人(18.7%)
70代	0	4人(21.1%)	10人(28.6%)	9人(39.1%)	23人(21.5%)
80代以上	0	0	6人(17.1%)	0	6人(5.6%)
合計	30人(100%)	19人(100%)	35人(100%)	23人(100%)	107人(100%)

表２　地区ごとにみた回答者の居住年数

	A	B	C	D	全体
半年未満	10人(33.3%)	1人(5.3%)	0	1人(4.5%)	12人(11.4%)
半年～1年	12人(40.0%)	0	0	0	12人(11.4%)
1～3年	8人(26.7%)	0	0	0	8人(7.6%)
3～5年	0	1人(5.3%)	0	2人(9.1%)	3人(2.9%)
5～10年	0	1人(5.3%)	0	1人(4.5%)	2人(1.9%)
10年以上	0	16人(84.2%)	34人(100%)	18人(81.8%)	68人(64.8%)
合計	30人(100%)	19人(100%)	34人(100%)	22人(100%)	105人(100%)

K特養の機能に関しては「入居機能」の認知度が73%（46人）と高く、ついで「デイサービス」、「喫茶」が65%（41人）と高かった。

またK特養の利用については図4より、B地区の89%（16人）の人が「来たことがある」と答えたのに対し、A地区は43%(13人)、C地区は10%(3人)、D地区は18%（4人）と大きく差が出た。「複数回来たことがあるか」という問いに対してもばらつきがあり、6回以上という人がB地区にだけ33%（5人）いた。その利用目的としては全体的に「施設主催行事への参加」が59%（20人）と多かった。

施設内には喫茶、売店、キッズコーナー、屋外芝生広場など地域に開放されている場所があるが、その認知度に関しては、B地区が83%（15人）と最も多く、A地区は50%（15人）、C・D地区は14%(4人)、16%（3人）と少なかった。また開設半年後に行われた地域住民をも対象としたお祭りの認知度は、D地区は21%(4人）と低かった。また、実際に参加したのはA地区が50%(13人）B地区が47%(8人）で、C地区は9%（1人）、D地区は1人もいなかった。

3-3. K特養の施設空間に対するイメージ

K特養に来訪したことのある人に対して、施設内部の印象について聞いた。相対的によいイメージの割合が高く、「明るい」88%（25人）、「開放的」53%(17人）などが多く回答されていた。「知っている老人ホームと変わらない」と回答した人はいなかった。このことにより、K特養が今までの特養とは違う施設であると感じている人が多いことがわかった。外観の印象は「きれい」50%(33人）「街並みに溶け込んでいる」36%(24人）とよい印象が多く回答されていた（表3)。これは街並みを考慮した外観デザインが評価された結果であるといえる。

4. まとめ

今回のアンケート調査の結果から、A・B地区では施設の認知度が高かったのに対し、C・D地区は低いということが明らかとなった。これより施設の認知度は、施設との距離が関係しているということがわかる。

また施設イメージは全体的にプラスの評価であったがこれは施設の内部空間や外観といった建物のデザインが大きく影響を及ぼしているであろうことが示されている。

しかし一方で、K特養の地域施設としての認知度はまだ低い。地域住民は施設に対してマイナスイメージは持っていないものの、親しみある地域施設として意識するには至っていない。しかし、施設に期待している様子はアンケート調査からも明らかとなっている。「病院を併設してほしい」や「調理できる所がほしい」、「学習室がほしい」など、実現の可否はあるが様々な意見が出された。そこからは地域施設としての成立の可能性をうかがわせる。

K特養はオープンしてようやく1年目を迎える。施設が地域施設として根付き、地域住民に意識されるまでには長い時間がかかると思われる。しかし、この施設の立地を生かし、地域住民の期待に少しでも沿うかたちで施設運営を進めれば、高齢者介護施設の枠を超え、地域施設として成功する可能性は少なくないであろう。

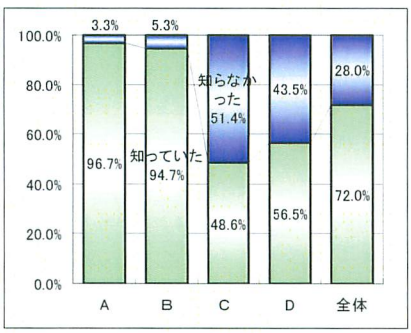

図2　K特養の認知度

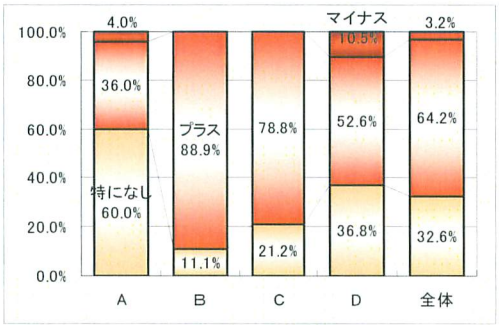

図3　K特養建設前の計画に対する印象

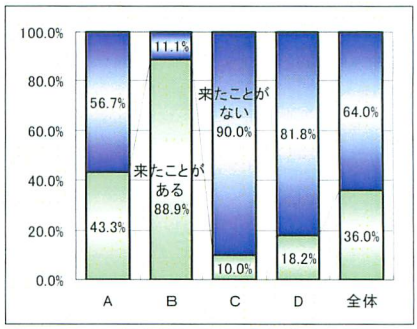

図4　K特養への来訪の状況

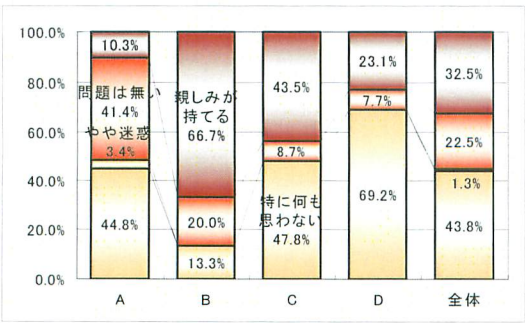

図5　K特養建設後の思い

表3　K特養の外観の印象（複数回答）

	A	B	C	D	合計
特にない	1人(3.3%)	1人(5.9%)	1人(36.4%)	4人(36.4%)	7人(10.6%)
いかにも老人ホームらしい	2人(6.7%)	3人(17.6%)	0	0	5人(7.6%)
住宅らしい	3人(10.0%)	4人(23.5%)	4人(27.3%)	3人(27.3%)	14人(21.2%)
老人ホームらしくない	3人(10.0%)	6人(35.3%)	0	1人(9.1%)	10人(15.2%)
暖かい感じがする	11人(36.7%)	9人(52.9%)	3人(37.5%)	4人(36.4%)	27人(40.9%)
開かれた感じがする	9人(30.3%)	8人(47.1%)	3人(37.5%)	3人(27.3%)	23人(34.8%)
閉ざされた感じがする	2人(6.7%)	0	0	0	2人(3.0%)
のんびりした雰囲気がある	12人(40.0%)	9人(52.9%)	2人(25.0%)	4人(36.4%)	27人(40.9%)
街並みにとけ込んでいる	14人(46.7%)	6人(35.3%)	2人(25.0%)	2人(18.2%)	24人(36.4%)
きれい	18人(60.0%)	7人(41.2%)	3人(37.5%)	5人(45.5%)	33人(50.0%)
豪華	2人(6.7%)	3人(17.6%)	1人(36.4%)	2人(18.2%)	8人(12.1%)
質素	0	1人(5.9%)	0	0	1人(1.5%)
その他	1人(3.3%)	1人(5.9%)	0	0	2人(3.0%)
合計	30人(100%)	17人(100%)	8人(100%)	11人(100%)	66人(100%)